

7月3日に行われた「放射能リスクのとらえ方～子どもたちへの影響を考える～」の学習会で、講師の上田昌文さんに寄せられた、参加された方からの質問と回答です。参考にしてください。

■通常の生活で、特に注意すべきことがらがあれば教えてほしい。

放射線の被ばくをできるだけ受けずに生きていくための対処方法がありますか？

- ・一度出荷制限のかかった食材は、他の産地のものでも、妊婦などはしばらく避けたほうが無難。
 - ・大人と、妊婦や子どもは分けて考えよう。
 - ・内部被ばくでは、妊婦や子どもは暫定基準値の10分の1をめやすにしよう。
 - ・大掃除で、室内の放射線量はかなり減らせる！
 - ・放射能におびえるより、免疫力を高める手段として、健康的な生活を送ろう。
- など詳しくは、以下のサイトを参考にしてください。

<http://nerima-kosodate.net/07oyakudachi/housyanou.html>

■汚染された食品（お茶など）が出ているところは、他の食品も汚染されていると考えていいのですか？

お茶は新芽の時期と重なって、生い茂った古い葉から吸収されたものが新しい葉に移行する「葉面吸収」があったので、値が大きくなりました。

足柄地区全体が特に高濃度に汚染されたというわけではないので（もちろん神奈川では高い方になっていますが）、足柄地区の他の品目も高くなるというわけではありません。

■外国産の野菜などは、放射能測定はチェックされているのでしょうか？

今でも検査はしていますが、全体のほんの一部にしか過ぎないとは以前から指摘されています。

■粉ミルクの放射性物質についてあまり議論になりませんが、原料の乳糖はチェルノブイリの影響がある国から輸入されていると聞いたことがあります。粉ミルクは危険ですか？

今は問題のないレベルに下がっているはずです。

事故直後はヨウ素で汚染されたミルクへの対処が大きな課題でした。以下のサイトを参考にしてください。

<http://www.enup2.jp/newpage35.html>

■林の中は放射能が循環すると聞きましたが、落ち葉を整理したり、木を剪定すれば、改善されますか？

ごみとして焼却して、放射性物質が出ているという指摘が会場からありました。自然の循環に任せておく場合も、森林は一番汚染が減る度合いが少ない生態系の一つとなります。

■「節電」は原子力発電を推進させるために隠された意味があるのではないのでしょうか。どんな意味があるのか、他の自然エネルギーはどうなっているのでしょうか？

ひと言では答えられません。今後のエネルギーを全体としてどうするか、の文脈の中でしか語れません。ご興味があれば、7月末くらいに出る、次のブックレットを読んでいただければ、話のとっかかりがつかめるのではないのでしょうか？

http://www.crayonhouse.co.jp/mojo/ProductInfo/product_id/125182

■幼児がいるので毎日公園で泥遊びやほこりの中にいる時間が長いのですが、自分で測定器を買う場合10万円程度のものは信用できないですか？

メーカーや国によって違いがあるのだったらどこの測定器がいいですか？

土壌の汚染は、空間線量を正確に測れば、おおよそ推測がつかますから（今は空气中の放射能は非常に少なくなっている）、それに適したメーターで測りさえすればよいと思われれます。土壌のサンプルをとって専門機関に測定を依頼すると、もちろん、より正確な値になりますが、日常生活の目安にするには、そこまでのことはいらないと思います（よほど高濃度に汚染されていない限り）。

■食物汚染が問題になっています。セシウム汚染牛肉が市内で販売されたとか、農業高校のお茶から出たと報道されました。市は国に倣い「安全なものしか出回らないはず」と言ってきましたが、給食が心配です。学校給食に、お弁当を認めるかどうか、基準をどう作るかなど、情報あれば教えて下さい。

残念ながら今の時点では、給食の「測定」はいくらか広がりつつあるものの、ルールや基準をどうするか、といったことで何かはっきりしたことを打ち出した自治体があるかどうかは把握していません。

ほかに、市立保育園や小中学校だけでなくいろんな子どもたちの居場所、公園、ごみ焼却場や下水処理場の近隣を測定して欲しいという質問がありました。府中ネットが市に問い合わせましたが、いまのところ測定体制をとるのが難しいので、近隣値を参考にしてほしい、今後要望が強ければ検討するというのが、市の回答です。